

状態になっているということであった。しかし、与えられた年齢における労働への潜在的な能力と傾向を余りにも軽く評価してしまうのは、余りにも重く評価してしまうのと同様に、有害であるかも知れないということが了解されるべきである。老齢になるに従って、この潜在的な能力は2つの方向から脅威をうける。もし労働が潜在的な能力にとって余りにも重くなるのであれば、その潜在的労働能力は間もなく使えなくなってしまうし、また、労働がその潜在的な能力にとって余りにも軽くなるのであれば、活動を欠いている状態が労働能力の標準を低下させることになるであろう。基本的な問題に関する討議は、今まで最初に示した危険の形を観察してきたが、しかしながら、第2番目の形の危険も取上げないわけではない。社会は老齢者から何も期待するものがないという境遇に、かれらをおくべきではない。老齢者のうち大部分の者はかれらがかつてはやなんらの機能をも果さないものであると感じさせられるならば、少しでも生きているのが、悪いと思う良心の苛責を増大することにさえなるかも知れない。

個人に関する心理学的な影響はどうであろうとも、この状況は経済的な重要性ももっている。仕事のない年金受給者はこれ以上にも生産しないだけでなく、かれらは社会の超過支出の原因にもなっている。したがって、心理学的な老人学の役割は、老齢者の労働に

対する潜在的な能力と傾向に関する諸問題をより一層追求して検討することである。

Forskning om den Äldre som Samhällsmedlem, *Socialnytt*, No. 5, 1969, pp. 22-30; No. 59, '70.

## モデルコルホーズ規則と

## 社会保障



### V. Babkin\* (ソ連)

本稿には、コルホーズ構成員の第3回全国大会により採用された新しいモデル・コルホーズ規則の観点から、コルホーズ社会保障委員会のもっている新しい役割が論議されている。

23回共産党大会の主要な決議に含まれたある決議にしたがって、1964年に中央集権化されかつ社会化された。

コルホーズ構成員に対する社会保障は、農業の急速なしかも安定した成長と、それによる市民の生活水準上昇を保障するために、第

コルホーズ構成員に対して政府が実施する社会保障制度の法的な根拠は、次に示されるとおりである。つまり、それらの法律は1964年4月15日付のコルホーズ構成員に対する年金と諸給付の法律と、土地を国有農場お

よびその他の事業や組織に移された旧コルホーズ構成員の年金について、ソ連閣僚会議により採用された1965年の政令第258号である。1968年1月1日現在で、コルホーズ構成員に対する年金年齢は、被用者に適用される年齢（訳注 男子60才、女子55才）に引下げられ、最低廃疾年金は増額され、また、第3グループに属する廃疾年金（そのような廃疾が雇用傷害のために生じたものであることを条件として）が採用された。

法律の適用と関連を有する主要な仕事は、コルホーズ・レベルの社会保障委員会によって行なわれる。多数のコルホーズでは、年金の裁定に必要な記録を保存するために、これらの委員会は常傭の管理者を雇用することになった。そのような職員は「検査官」と呼ばれている。かれらのすぐれた価値は大きい。必要な文書の欠如については、かれらはコルホーズの就労期間、所得額などの組織的な登録を示す各構成員の記録を保存する仕組みを、次第に作り上げてきた。

コルホーズに対する新しいモデル規則は、政府により保証された社会保障に対するコルホーズ構成員の権利を保障し、最近の発達をもたらした。前の第2回大会により採択されたモデル規則は、1条(article)だけで構成されており、その章では、コルホーズは老齢者と廃疾者、遺児および託児所に対する社会扶助へのある基金の設立に義務をもっているだけであったが、しかし、新しいモデル規則は、コルホーズ構成員の社会保障に関する基本的な規定をもっているある包括的な章を含んでいる。

新モデル規制の第39条に従って、コルホーズ構成員は、実施中の法律により、老齢、廃疾、および遺族年金を受給し、女子も出産および分娩給付を受給しており、これらはコルホーズ社会保障について、中央に統合されたすべての基金から支払われる。コルホーズ農民のある大きな目標は、一時的労働不能に対する社会保険の採用であった。したがって、コルホーズ構成員は、中央に統合された基金から支払われる資金により、疾病給付および

サナトリウムと温泉における治療の受給資格を、取得できるようになるかも知れない。

コルホーズ構成員は、コルホーズ生産のヴェテランであるという名誉に値するような義務の遂行を承認しており、多数のコルホーズは、「コルホーズ功労メンバー」の称号を与えるとともに、独自の基金から支払われる補足的な年金を支払っている。

最近、ロシア共和国コルホーズ社会保障委員会は、Ust-Labinsk 地区コルホーズ社会保障委員会の活動を調査した。この地区委員会は、モデル規則により現在カバーされている多数の方式のうちでも、早く設けられたものである。その委員会の発意により、モデル規則は第40条で、コルホーズがその評議会の決定によって、コルホーズ経済の発展にとくに功労のあった人びととともに、コルホーズ生産のヴェテランに対して、すべての一般的年金と個人的年金に補足的給付を認めることができということを規定している。第19条にしたがって、コルホーズ評議会はサナトリウ

ム、レクリエーション施設、パイオニア・キャンプ、および高齢者と廃疾者のホームを提供するために、ある基金を別に保管することができる。また、コルホーズ評議会が地方機関もしくは国営かあるいは協同組合の企業と協力してそのような活動への財源調達を決定することができる。

コルホーズ社会保障の発展は、ソ連邦の共産党によるプログラムにしたがっており、そのプログラムには、国民所得の増大に応じて、政府機関、労働組合およびコルホーズは、年齢もしくは廃疾またはに労働能力を失う全市民の経済保障に対して、漸進的に責任を負うであろうということが述べられている。

現在、すべての社会保障委員会は、モデル規則にもとづくそれぞれ独自の規則、とくにコルホーズ構成員の社会保障に関する諸規定をよりすぐれたものに前進させるために、コルホーズを援助し、また、コルホーズ社会保障委員会の設置を助けるべきである。

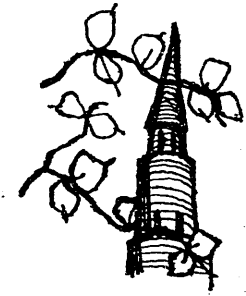
※ 社会保障省次官(RSFSR)。

Primernyi ustav Kolkhoza i Sotsialnoe obes-

## 寡婦年金と

# 女子の社会保障改革

Horst Fenge (西ドイツ)



本稿には、女子の社会的保護、とくに、不満足であり、しかも時代遅れであると考えられる老齢と廃疾に対する社会的保護の改革が提案されている。

基本的には、社会保険は雇用関係にある人びとの行なった稼得活動にもとずいている。家庭にいるかあるいは子供を養育中の女子によって支払われた拠出は、社会保険の参加を正当化する活動として承認されていない。事実上では、主婦の保護は夫の年金受給資格取得に依存しており、また、夫の年金から引出されている。

寡婦年金では、受給申請が当人の年齢、収入能力、もしくは結婚期間と無関係に行なわれているが、現在の無制限な形による寡婦年金は、支給額については不十分であるとみなされるかも知れないが、年金の受給資格条件では寛大すぎるかも知れない。

女子に適した年金保護を保証するある仕組みの創設は、現在の形では疑問のある事柄に、社会保険と寡婦年金を通じて行なわれる二重方式の仕組みのもつ価値を与える。そのようなある仕組みは必要とする費用が高いという観点から、そのように大きな費用が要求されるので、したがって、なんらかの新らしい